

# 成瀬が丘 防災つうしん



No.8

平成30年9月30日  
成瀬が丘自治会自主防災部



## ●首都直下型地震を想定した自主防災訓練の実施

今年に入り大阪北部地震、西日本豪雨、多数の台風の上陸、北海道胆振東部地震など全国的に災害が多発しています。町田市を含む関東地域では、今後30年間に70%の確率でマグニチュード7程度の地震が発生するとの研究結果も発表されています。地震の予知体制の整備も行われていますが、現状では「いつ」・「どのくらい」の規模の地震が起こるのか正確に予知することはできません。そのため、地震がいつ起きても被害を最小限に食い止めることができるよう、その対処法を日ごろから考えておくことが大切です。その一環として災害がいつ発生しても慌てないように、繰り返して防災訓練を行うことが重要です。

本年も、自治会では下記のとおり自主防災訓練を実施します。当日は炊き出し訓練で作ったアルファ化米や豚汁を試食しながら近所の方と親睦を深めましょう。なお、参加して下さった方には防災グッズ（アウトドアライト、市から提供していただいた防災用非常食）、お子さんにはお菓子を配布しますので、ご家族で是非参加してください。

### 自主防災訓練の概要

日時	10月14日(日)9時30分から12時頃まで
場所	成瀬が丘ふれあい会館とその周囲
訓練項目	町田消防署の指導の下、①災害関連DVDによる学習 ②火災などの通報訓練 ③スタンドパイプを利用した消火訓練 ④バケツ及び簡易消火器を利用した初期消火訓練 ⑤心肺蘇生の人工呼吸・AEDを利用した救護訓練 ⑥アルファ化米及び豚汁に依る炊き出し訓練と試食 ⑦自治会が丁目毎に設置している防災倉庫の備品の公開及び説明など



## ●自主防災のための班内情報の充実

いざ大地震が発生した時、警察や消防など行政による「公助」だけでは、すべての人を守ることはできません。一人一人が自分の身を守る「自助」、自治会など近くにいる人同士が助け合う「共助」が不可欠になります。

自治会では昨年度に策定した「災害時の行動マニュアル」に基づき自主防災活動を実施することとしています。その際には、災害発生による人命や家屋などの被害状況の情報を迅速に把握することが重要です。各班においては班会などを開催して班内の状況を共有しておられる班もあると聞いていますが全体的には十分ではありません。

そこで、共助を行う上で十分とはいえませんが、班長さんに班員の安否確認に利用するための「自主防災のための会員情報」を作成していただき、世帯人数や避難に手助けが必要な方などの状況がわかるようにしていただくことになりました。この情報は各々の班内で個々に管理していただくもので、自治会への提出は必要ありません。詳細は用紙をご覧ください。

情報収集は個人情報を含むため慎重に取り進めることが重要ですが、将来的には各班共通の調査項目以外に、各班内のコンセンサスが得られれば緊急連絡先や災害時に配慮しなければならない事項など、より詳細な情報の共有、更には防犯活動への利用などに発展できればと思います。



## ●災害時のペット対策について

災害はいつ発生するかわかりません。大切なペットを守るのは飼い主です。日頃から、緊急時の対応を考え、災害時の対策を行っておきましょう。



### ◆家で準備しておきたい災害時飼育ペット対策

#### 1 住まいの防災

- 自宅の耐震強度の確認や補強、家具の固定をしましょう。
- 室内でペットを放し飼いにしている場合、ペットが逃げ込める場所として自宅内に比較的安全性が高い場所をあらかじめ用意しましょう。また、ペットのケージを置く場所を決める際には落下物や家具の転倒がないように配慮しましょう。

#### 2 迷子札等の装着

災害はいつ発生するかわかりません。室内での飼育であっても迷子札や犬鑑札などを装着しておきましょう。

#### 3 しつけ

普段からケージでの生活に慣らしておきましょう。避難施設には、ペットが苦手な人も多く避難してきます。犬にむだ吠えをさせない、指示に従うなど、基本的なしつけをしておいてください。

#### 4 健康管理

避難施設には多くのペットがやってきます。狂犬病予防注射、混合ワクチン注射、ノミ・マダニやフィラリア予防等を行い、感染症から守りましょう。町田市保健所や市民センターで配布する「動物健康管理手帳」を活用して、健康管理に役立てましょう。

#### 5 主な備蓄品のリスト

避難施設には、ペット用品は備蓄されておりません。いざという時のために用意しておきましょう。

- ペットフード（最低1週間分）
- 薬
- 予備の首輪、リード
- ケージ・キャリーバッグ等（猫は避難するときに必要になります）
- 食器
- トイレ用品（ペットシート、トイレ砂、フン用袋、排泄物の処理用具）
- ペットの写真（スマホで撮影しておくとも便利です）
- ブルーシート

### ◆災害が発生したら

#### 1 飼い主自身の安全確保・状況確認

災害時にペットを守るのは飼い主であることから、まずは飼い主が無事であることが必要です。自分自身の安全が確保されてから、ペットの逃走や怪我に注意し、リードをつける、ケージに入れるなどにより、ペットの安全に配慮しましょう。

#### 2 避難の判断

飼い主は、自宅や地域の状況を確認し、避難するか自宅に留まるかを判断します。自宅が危険な場合や避難指示が出ている場合は、飼い主の安全が確保できる範囲においてペットを連れて避難施設（小川高校を指定）へ避難します。自宅や地域の状況が安全な状態であれば、自宅に留まるという選択肢もあります。

#### 3 避難中のペットの飼育環境の確保

避難施設での飼育は飼い主が責任を持ってペットの世話をします。飼い主同士で代表者を互選し連帯して適正管理を行うことも一つの方法です。

#### 4 避難施設でのペットの飼育場所

避難施設でのペットの飼育場所や排泄物を処理する場所は、施設側の指示に従ってください。原則としてペットを居住スペースに入れることはできません。屋外での風雨や暑さ寒さ対策など、飼い主同士で協力して管理する必要があります。

以上